

『発掘少年の恋？』

高原のお嬢さん』

白男川 孝仁



その1『第二次上場遺跡調査』

二〇〇七年の出水市教育委員会発行の『市内遺跡（上場遺跡他）発掘調査報告書』によると、池水寛治先生による上場遺跡発掘は、昭和40年4月の第一次調査を皮切りに、昭和42年、昭和43年、昭和46年、昭和49年まで、五回の調査記録が残されている。

第一次調査に、出水中学2年生で参加させていただいたT君も、第二次調査には出水高校1年生の考古学部員として参加した。

25名の参加部員の中には、前回飲酒事件で御迷惑をかけた牛之浜修さんや、前原則子さ

んの姿があつた。

前原女史は、後年早稲田大学吉村作治教授とエジプト考古学で活躍される方で、その事については後述する事とする。

T君ら一年生は、夏休みの『えびの高原キヤンプ』を終えたばかりで、登山疲労もありながらの参加となつた。

三笠中出身の池崎譲二君も、その一人だが彼こそ、九州で最も高名な考古学者の一人となる男である。

四十歳頃であつたらうか？ NHKの教育番組で、『博多の鴻臚館』の紹介があつた。インタビューを受けている責任者こそ、池崎君その人であつた。

福岡城の平和台球場跡に、平安時代より朝鮮使節団の迎賓館としての鴻臚館について、知る人の少ない遺跡であるが、鎖国とされた江戸時代でも、長崎の出島以外に外交があつ

た役所として非常に貴重なものである。

上場の話に戻るが、今回の第二次上場遺跡調査においては、前回の事実をはっきりと裏付けると共に、6層下部にもう一つのナイフ形石器を持たない文化層のある事などが判明した有意義な調査結果となった。

その2 『石飛遺跡と第三次上場遺跡調査』

一年生の夏休みが第二次調査、翌年の春休みが水俣の石飛遺跡、そして二年生の夏休みが第三次調査となる多忙なスケジュールの最中であつた。

出水市の皆さんからすると、大川内から上がって行く上場高原と、水俣市の湯の鶴温泉など、懸け離れた僻地同士に思えるが、実は高台同士で直線で5キロも離れていない。

事実、我々も上場から徒歩で湯の鶴温泉經由で、石飛に行った事がある。

縄文以前の旧石器人にしてみれば、隣保班といった処であらうか。

石飛遺跡発掘は、水俣市石坂川石飛分校という小学校に宿泊しての作業であつたが、当時は『えびの群発地震』の最盛期で、夜中に何度も恐い思いをしたものだ。

調査内容については、地層や遺物の出土情況も上場と酷似していて、旧石器文化遺跡として証明された。

発掘現場は景色の素晴らしい『亀齡峠』の近くで、水俣市内からの観光客も多かった。

さて、前原女史の話に戻るが、近年でも出水高校考古学部員達は、『もぐら会』として旧交を暖める機会を頂くが、早稲田大学吉村教授から、トレーシングの技術の高さを評価して頂いての事だったと伺った。

トレースとは遺物の写生であるが、写真の添付ではなく、学術記録として手書きの詳細

模写が必要とされるので、今回の寄稿にトレーニングを添付しておく事とする。

昼間の発掘そのものが、大変な作業ではあるが、調査した事実を学術的記録として残さねば徒労となるので、作業日報としての報告書の作成とか、精密なトレーニングなど、学術経験者の卵としての修業が始まる。

出水高校考古学部は、池水寛治先生の厳しい指導の下、先輩方から教えを受け継いでいる。部誌『もぐら』に、I君の狸山遺跡の報告書が記載されているので見てみよう。

その3『狸山遺跡調査概要』

当遺跡は、今回の第三次調査の本部地点である上場小学校前遺跡地より北に2kmの舌状台地で、熊本県との県境付近に位置する。

付近は以前より縄文早、前期遺跡と考えられていたが、昭和40年6月池水寛治先生らの調査により、早期の山形文・穀粒文、前期の

土器式、中期の阿高式、その他旧石器を裏付ける黒曜石剥片の出土により、上場小学校前遺跡と同様に旧石器遺跡である事が明らかになった。云々。

高校二年生にしてはキチンとしたI君の調査概要であるが、実は片岡英治先輩のレクチャーあつての事である事を告白しておく。

R・Cサクセションの忌野清志郎の作品に『僕の好きな先生』という曲がある。

『煙草と絵の具の匂い♪』とはまさに池水寛治先生であり、熊大に進学され教職を全うされた片岡英治先輩に他ならない。

凄い文学的才能をお持ちで、I君の報告書の指導もして頂いたが、笑える程チャランポランな性格でもいらつしやつた。

学校である時呼び出しがあり、『今夜、出水駅に修学旅行列車が停車するので、必ずプラットホームで笑顔で手を振るように!』と

変なご依頼であつたが、驚いた事に片岡先輩は、T君の名前と写真を使つて大阪の女子高生と文通をしていたのだ。

仰せの通り笑顔で手を振つたが、お相手は分からなかつた。

その後の文通も続けるよう言われたので、翌三年生の夏休みには、ヒッチハイクで東大阪市の彼女の家まで訪ねたが、交際はそれきりだつた。

当時の文通交際とは、もともとそんなものであつたのかも知れない。

その4『高原のお嬢さん』

第三次上場遺跡調査の一環として、狸山遺跡調査を担当した事は、報告書に記した通りだが、ある日不思議な事が起つた。

狸山での出土が芳しくなく、先輩方は現場にT君だけを残して調査に出掛けた。

けだるい暑さの中で、独り掘り続けるT君

であつたが、ふと気がつくとき白いパラソルの少女が見学していた。同い年位であろうか自宅近くの畑で毎日穴掘りをしている少年にいろいろと質問を始めた。

小学校の近くで近年発掘が続いている事はご存知だったが、一般の方々からすると、土の中から昔の物を掘り出してどうするの？、何になるの？、であつたろうが、T君が丁寧にお答えしているうちに、何度も通つて来て下さるようになった。

しかし、良い事ばかりは長く続かない。

三年生の中浦隆義なつら たかよしさんに遠目に見つかつたらしく、上場小学校に戻つて整理作業をしていると、『T君！高原のお嬢さんとヨロシクやつてるねえ。』と、声を掛けられた。

高原のお嬢さんとは言い得て妙ではあるが一緒に片付をして下さつていた三年生の山崎真知子やまざき まちこさんも、『あら、T君にはそんな良い

事があつてたの?』と、コロコロと笑つていらつしやる。

なんと、間の悪い中浦先輩であろうか。

山崎真知子先輩こそ、中学生の頃から憧れの方で、今日初めて二人きりの作業中の事であつたのだ。

恋愛感情と言えば、あまりに薄っぺらく、失礼に当たるので、お断りしておくが、あくまで遠い憧れとして敬愛させて頂いていたのだ。その感覚は老人となつた今でも変わらずにいる。

当時、舟木一夫の『高原のお嬢さん』が流行っていたので、『T君の恋物語』として噂話が盛り上がっていたようだが、狸山地点での発掘が終了すると、有難い事にその噂話も自然消滅してしまつた。

その5『最後に』

池水寛治先生のお蔭で、中学生時代から有

意義な経験をさせて頂いたが、部誌『もぐら』の創刊号から第10号を参考に、池水寛治先生と部員達の活動記録など話しておきたい。

出水高校考古学部の第一期生の卒業が昭和37年であるので、当然それ以前からの活動が推測される。

大掛りな発掘調査としては、薩摩川内市の国府、国分寺と、長島の古墳群発掘調査が、昭和40年に行なわれているが、壮大な上場発掘計画を前にしての事前調査なども、盛んに行われていたであろう。

前述の池崎讓二君や前原則子さんだけでなく、北海道の西田茂先輩、上屋真一君など、高名であるが、三年後輩の脇岡隆夫君は、古文書解読で右に出る者は無く、同学年の桐野作人さんなど、今や日本の歴史作家の代表として、出水市でのご講演も大盛況であつた。

また出水市内の高速道路工事前の遺跡調

査については、長野真一先輩が、ほぼ全区域の発掘を終えていらつしやる。

この様な部員達の活躍を、誰より喜んでいらつしやるのが、亡き池水寛治先生であろう。さて、昭和55年のご逝去の際は、出水からも多くのご参列があつたが、今年で43年目となるようだ。

忌日記念祭が五十年忌とすると、六年後の事であろうが、『もぐら会』の先輩方を中心に、広く連絡を取り合つて、池水寛治先生の御遺徳を偲び、改めて御実績を顕彰出来れば、と考えている。

拝

付記「お詫び」

当初は、少年の発掘物語を連続掲載する気ではなかつたので、お詫び申し上げておきたい。

昨年、渋谷五族の祁答院家に縁の知人か

ら、中世薩摩の雄・渋谷氏『新薩摩学』という本をお借りする事が出来た。

鹿児島純心女子大学教授の小島摩文氏こじま まふみの編集で、七名の先生方の共著であるが、桓武天皇からの系図に渋谷氏の祖・『基家』が明記されている。

薩摩に下向した渋谷一族の東郷家七代目に『右重』が居るが、弟『重頼』に白男川祖との記述を見つけ、欣喜雀躍であつた。

また、荒田邦子先生あらた くにこの年表に一三七六年から一四一一年頃の『重頼』の活躍が記載されていたので、清色城奪回等について、皆様に詳細をご報告したいと考えていた。

しかしながら、東郷家『重頼』と同時代に入来院家七代目当主『重頼』記述を見つけたので、詳細を再確認した結果、『重頼の活躍』についての記述は全て入来院家当主『重頼』の記述であり、白男川祖『重頼』のものである。

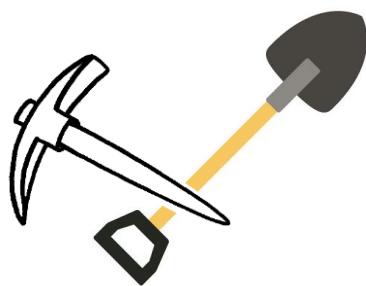
無い事が分かった。

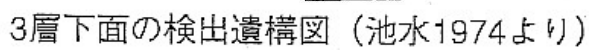
大変な恥かきをする処であつたが、この方面にお詳しい下土橋様に先づ『新薩摩学』を見て頂き、何らかの教えをいただけたらと、考えている。

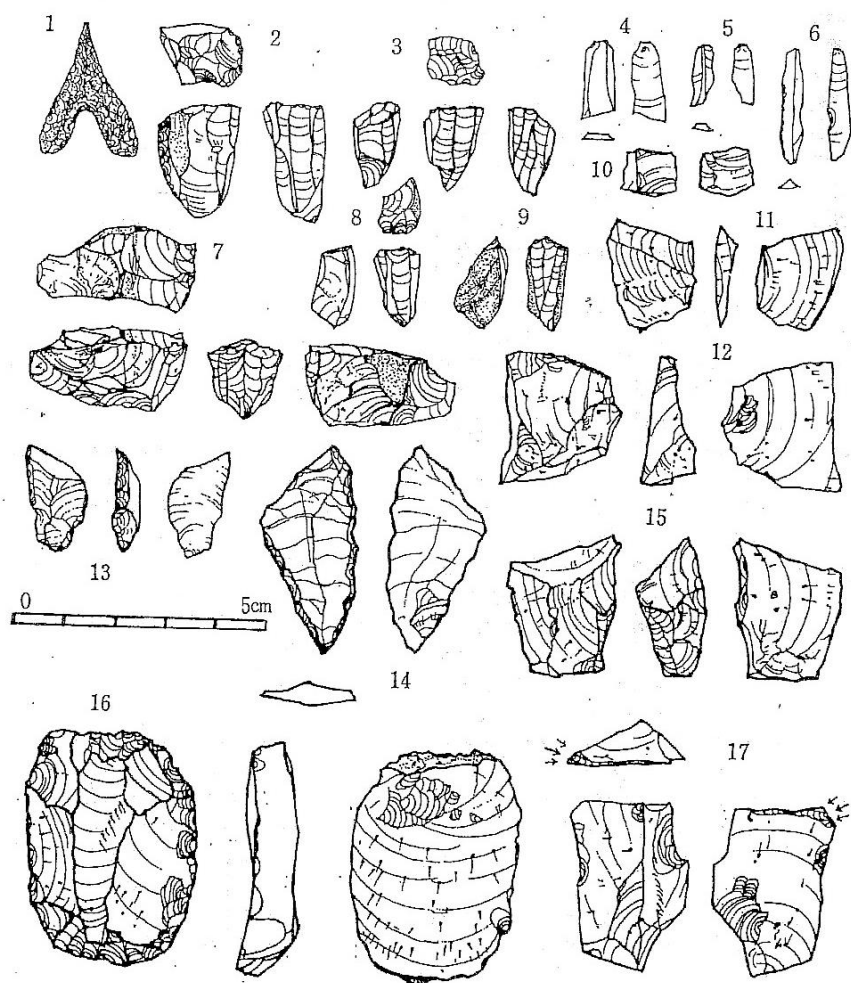
また、祁答院家宛に郵送された封筒は、入来院貞子様の差し出しとなっており、宛名の文字など、皆様にとって懐かしいものであらうと思う、入来院家に持参したいと考えている。

しらおがわ・たかひと

出水市文化協会 理事
俳句結社 河鹿 同人







上場遺跡出土の石器 (2層・3層・4層)

1～2 上層 2. 3～2下層 4. 5. 6. 10～2. 3層 7. 3上層 8. 3層
9. 11. 12～3下層 13. 14. 15. 16. 17～4層 鹿兒島考古 第9号